



創立1880年
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館6階
Tel 03-6302-1960
URL http://tokyo.ymca.or.jp
発行所 公益財団法人 東京YMCA
発行人 菅谷 淳

東京YMCA

6

2020年

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体的全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

人と関わり 人が育つ YMCAキャンプ100年

<オンライン対談>



日本YMCA同盟では100年を記念して、全国の関係者による「キャンプ・ストーリー」をホームページ上で連載しています。



<https://www.ymcajapan.org/campaign/camp100th/>

「限りなき成長」を願って

1920年にYMCAがキャンプを始めて今年で100年を迎えました。青少年の「限りなき成長」を願い続けてきたYMCAキャンプについて、新型コロナウイルス禍に見舞われた今あらためて、その価値や課題、展望を森井利夫さんに聞きました。

(聞き手・東京YMCA副総理事 星野太郎)



森井利夫さん

文教大学名誉教授／
東京YMCA名誉会員、
東京YMCA野尻学荘元荘長

「全人教育」実践の場

●星野 草創期のYMCAキャンプは主に中高生が対象でしたが、徐々に幼児・小学生、そして大

人や家族にも広がり、スポーツやリハビリなどさまざまな要素も加わって発展してきました。一言では言い尽くせない歴史がありますが、変わらず大切にしてきたもの、その原点は何でしょう

か。
●森井 私は15歳の時に初めてYMCAキャンプに参加し、今年85歳になるまで70年間、ほぼ毎年キャンプに参加してきました。私の原点は、小集団、つまりグループでの生活を基本としたキャンプです。大自然の中でグループの仲間と生活する。人と人との関わりの中で「個」が変革し、成長していくことが、YMCAキャンプの土台だと思っています。

●星野 「個が変革」するとは、たとえばどんなことですか
●森井 1961年のことです。私は当時ソーシャルワーカーとして勤めていた精神病院の患者

さんたちのキャンプを経験したことがあります。統合失調症の方々が、警戒心や恐怖心などが強く、引きこもりやすい傾向があったのですが、そんな患者さんたちが他者とつながることができないかと考えて、キャンプをやってみようというアイデアが「セラピューティック・キャンプ」ですね。すると実際、日に日に変化がみられました。沈鬱が無表情な状態から笑顔が見えるようになり、人に話しかけたり、歌ったりするようになった。病気が治るわけではありませんが、孤立自閉的な状態から、他者との生活を自然に受け入れるようになり、社会とのつながりが促進されていきました。

●星野 現在では多くの団体が青少年キャンプを行っていますが、YMCAの特長は何でしょうか
●森井 長年の間にはいろいろな団体のキャンプも経験しました。険しい登山など、鍛錬や集団訓練の志向が強いもの。自然体験を重視するもの。中には一人きりで20時間森の中で過ごす「ソロ」というプログラムをするキャンプもありました。

●星野 現在のYMCAキャンプの課題は何でしょうか
●森井 中高生の参加が少なくなっているのは気になります。そもそも中高生を取り巻く状況が大きく変化していますね。SNSに依存し、直接的な人間関係をもたず、多感な時期なのに、経験も関心の幅も限られている。これで

は成長が片寄るのではないかと心配です。
●星野 キャンプだけでなくYMCAのいろんな活動でそのことは課題になっています。集団離れが進んでいると私は思います。
●森井 小集団の中でもまれる、人との相互作用の中で成長こそが必要だと私は思いますが、難しい課題ですね。

人間関係から学んでいく

多様な参加者受け入れて

赤三角

私はここ10年来、幾つかのYMCAの行事に実行委員として参画しているが、委員会の運営で感心していることがある。それはどの会議でも必ず議事録をとり、終了後は評価会を行い、「PDCAサイクル」つまり「計画↓実行↓評価↓改善」を励行していることだ。一見当たり前のようで、昨今の国会をみればよくわかる▼私は昔、ゼネコン入社後に工事現場に転属となり、安全日誌を記すよう指示されたが、知識が浅く貴重なデータとなすべき記録をまとめられなかった苦い思い出がある。工事完成後は次の事業で忙しく、評価会ができないことも多々あった▼今年、YMCAチャリティゴルフ実行委員会が「ボランティア・オブ・ザ・イヤー」を受賞した。私も委員を務めたが、毎年何度も委員会を開き、知恵を寄せ合い工夫を重ねてきた。第30回の今年には新型コロナウイルスのため中止となったが、30年の歩みには委員会の働きがあり、そしてそこには議事録作成と評価会の実施があった。今後もこの良き慣習がYMCAの文化として大切にされ、変化の大きい今日の社会ニーズに応える有効な助けとなることを願っている。(東京グリーンワイズメンスクラブ 柿沼敬喜)

1面より

【活躍に感謝】

ボランティア表彰

毎年5月に東京YMCAは、昨年中に活躍された会員や学生ボランティアを「ボランティア・オブ・ザ・イヤー」として選出し、「会員大会」の席上で表彰しています。今年が新型コロナのため大会は開催できませんでしたが、下記の方々が受賞しました。日ごろの活躍に感謝し、ご報告します。

2019 Volunteer of the Year

「チャリティーゴルフ大会実行委員会」



「2019ボランティア・オブ・ザ・イヤー」を受賞した「チャリティーゴルフ大会実行委員会」は、1990年以来30年にわたってチャリティーゴルフ大会を企画運営し、東京YMCAが行なっている障がいのある子どもたちのプログラムなど青少年支援活動をサポートしています。委員会は10数名の会員で構成され、半年前から準備を始め、委員自ら参加者募集に奔走し、当日はプレーヤーとしてラウンド、そして表彰式では司会進行からプレゼンターなど、陰になり日向になり大会を盛り上げてくださっています。今年の第30回記念大会は新型コロナの影響により中止となりましたが、息の長い支援に感謝して表彰となりました。

2019 Youth Volunteer of the Year

※カッコ内は キャンプネーム

「ユース・ボランティア・オブ・ザ・イヤー」は、子どものキャンプや障がい児者の活動などさまざまな領域で活躍する学生ボランティアリーダーに贈られる賞です

齋藤 優香さん (ヤミー) / 江東センター

定例野外グループ活動「くれよん」を中心に、シーズンキャンプへの参加はもちろん、バザーなどのイベントにも積極的に参加するとともに、リーダー全体のまとめ役として大いに頑張ってくれました。

岩井 駿介さん (いわし) / 山手センター

定例野外グループ活動、シーズンキャンプほか、災害復興支援や新型コロナウイルスの影響による学童クラブ支援、バザーなど、多岐にわたる活動に積極的に参画。ユーモアあふれる独特のリズムを持ちつつ、チームプレーヤーとして活躍できる彼は、多様性を活かしあうリーダーシップの良き姿を体現しています。

港 月乃さん (びっと) / 西東京センター

発達支援のグループ活動やキャンプで、ひたむきに取り組み活躍しました。大学では特別支援教育教員養成課程に在籍していたので、4年生のときには「放課後等デイサービスPIT国立」の指導員もしました。4月からは特別支援学校の先生となりました。子どもたち一人ひとりを大切に考え向き合う先生になっていくでしょう。

高岡 淳平さん (ヤミー) / 南センター

大学1年生から、幼児の定例野外グループ活動はじめシーズンキャンプに継続して参加。3年生になった昨年度はより精力的に参加し、他のリーダーたちからも信頼されています。

阪本 翔矢さん (ゆでたまご) / 東雲コミュニティセンター

東雲コミュニティセンターの中心的な存在としてリーダーたちをまとめてくれました。定例野外グループ活動、シーズンキャンプでも活躍し、他のリーダーからも信頼されています。



さきの戦争後に再開した東京YMCAの会員活動は、「人は(人間・シンカン)を豊かに過ごす」

シリーズ 資料室の窓から(108) 東日本青少年野外活動センター 齊藤 實 本会元副総主事

ことよって(人間・シンゲン)になる」として展開された。クラブ活動を楽しむ会員にとつて、「夏季キャンプは年間の会員活動の一環」であった。即興的な季節行事では無かった。他方、都会の青年たちは次第に無秩序な喧騒を山中湖畔にまで持ち込んだ。もはや「静かな湖畔」での会員キャンプは出来な... (transcription of the rest of the article text)

もろうのはいいのではないかと... (transcription of the main article text in the right column)

総主事カフェ

東京YMCA総主事

菅谷 淳

「クラスター」「オーバーシュート」「ロックダウン」「PCR検査」「自粛」「3密」「緊急事態宣言」「アピガン」... (transcription of the 'Total Director Cafe' article text)

Y M C A の原動力 会員活動

地域ニーズに 応える活動を

委員長あいさつ

「一年を振り返り」

2019年度会員部運営委員長

わたひき こうじ
綿引 康司

会員部運営委員会ではこの1年間、前年度に続き「会員のあり方について」というテーマを議論の中心に据え、会員・職員ともに意見交換をしてみたりしました。

東京YMCAが2011年に公益財団法人となって以来「会員」とは何かが不明瞭となった、また会員数がなかなか増えない、会員の高齢化が進んでいる等の問題が顕著となり、かつてのような会員活動とは異なる状況が生じています。そのため委員会では改めて「会員」のあるべき姿を明確にするという試みを行いました。そのプロセスとして、「会員」という集団の分析を行い、さらに各運営委員が「会員」としてどのような思いをもって東京YMCAに関与しているのか、発表もしました。その中で、「会員は、その関わり方は人によって様々ですが、YMCAの理念実現のために必要な『力』であり、会員を増やし、その会員が活躍する場を数多くつくること、結果として東京YMCAの社会貢献へとつながる」ということがイメージできたことは有意義だったと思っています。

まだまだ議論は十分ではなく、新型コロナ禍のために最後の数カ月は会合を開けず、結論に至らないという残念な結果となってしまいましたが、会員活動がより活性化されることを願って、次年度の委員みなさまにバトンタッチしたいと思います。

統括あいさつ

「会員とは— 改めて問う」

会員部・コミュニティーセンター 統括 中里 敦

会員とは、東京YMCAの主旨に賛同し、「会費」と呼ばれる寄付によってYMCAを支え、時にはボランティアとしてプログラムの企画運営にも携わる方がいます。YMCAは、水泳や英会話、学校、保育園など多岐にわたる事業を行っていますが、ここでいう会員は、それら事業の参加者・利用者とは違い、「運動体」とよばれるYMCAのボランティア団体としての側面を、“参画者”“担い手”として支えていく方を意味しています。

YMCAは創立以来いつの時代も、その使命に賛同し、社会の課題に応えようとする会員たちの知恵や熱意によって推進されてきました。現在は「会員部」に専従職員をおき、また会員の代表による「会員部運営委員会」を設置して、下記をはじめとする多彩な活動を実施しているほか、各コミュニティーセンター内にも活動委員会やサポートチームを作って、会員増強や新規プログラム開発などにあたっています。

YMCAが地域のニーズに応え、社会に必要とされる団体であり続けるためにも、会員活動の活性化は必須です。ぜひ多くの方に「会員」として登録いただき、共にYMCA運動を担っていただければ幸いです。

2020年度の主な会員活動

このほかにも約30種の活動を実施しています。詳細はホームページで



↑チャリティーラン

障がいのある子どもたちの支援を目的とした駅伝大会です。今年は新型コロナのため9月にオンラインで開催予定です。



↑街頭募金活動

主にバングラデシュYMCAの教育支援のため、9月に国際協力募金活動を予定しています。



↑「下町こどもダイニング」

「孤食」をテーマに開催している子ども食堂です。会員ボランティアが食材の調達や料理など運営全般を担っています。



↑音訳ボランティア

目の不自由な子どもたちのため、児童書などを音声化して録音図書を作り、特別支援学校などに寄贈しています。

新型コロナウイルスの影響により、5月23日に予定していた「第18回東京YMCA会員大会」が中止となりました。「大会」では2020年度の会員部運営委員および名誉会員を推挙し、事業計画を確認する予定でしたが、今年は大会での決議を経ずに理事会で審議され、以下のように決定されました。また「ボランティア・オブ・ザ・イヤ」等表彰者は2面に掲載しました。あわせてご覧ください。

2020年度 会員大会に替えて

2020年度会員部運営委員

下記25名の方々に委嘱されました。来年5月までの一年間、会員を代表して活動を運営するとともに、会員増強なども担い、より良い会員活動を推進していきます。

【再任13名】

青木 方枝、麻生 由美子、今井 武彦、笈川 光郎、大谷 博愛、大輪 匡史、唐島 悦子、木村 光晴、蔵知 浩、小林 文彦、菰渕 光彦、鈴木 雅博、中内 秀子

【新任 7名】

上田 晶平、近野 準一、榊原 正人、長谷川あや子、保坂 天蒼、本川 悦子、蒔田 敏雄

【職員 5名】

愛洲 久美子、口原恵美子、中里 敦、星野 太郎、松原 愛作

【退任 5名】 *任期満了

小原 史奈子、小原 武夫、篠田 秀樹、東矢 高明、綿引 康司

2019年度 名誉会員

「名誉会員」は、東京YMCAの発展に特に貢献のあった、満70歳以上で会歴20年以上の者に贈られるもので、毎年の会員大会で推挙されています。



かつた まさよし
勝田 正佳さん (84歳)

1994年度から6年にわたり国際協力委員及び委員長をつとめ、豊富な海外滞在経験を東京YMCAの国際事業発展のために活かされた。ソウル・台北・東京YMCA指導者協議会（STT）をはじめ各種の国際大会に参加し、各国YMCAとの関係強化に尽力した。1998年度から常議員を、さらに2009年度からは常議員会議長をつとめ、続けて2011年度の公益財団法人移行後2017年度までは評議員会会長として東京YMCAの事業を力強く導いた。他に、学校法人東京YMCA学院理事及び評議員、ファンド開発委員長、日本YMCA同盟退職金・年金基金監事等を歴任し、広くYMCAの発展に貢献した。趣味の水彩画作品を、毎年「会員芸術祭」に出品されている。



やまもと ふみお
寺門 文雄さん (83歳)

1982年に東京YMCAに入会以来、半世紀を超えて東京YMCAの活動を支え続けている。1980年度から世田谷ランチ委員、南センター運営委員、ファンド開発委員、芦花公園女子学生会館運営委員等を歴任した他、午餐会世話人や会員部運営委員としても会員活動の活性化に貢献された。東京YMCAが公益財団法人に移行して最初の監事をつとめ、新しい制度における適正な法人運営を維持するために尽力された。他に、愛恵福祉支援財団常務理事を務められていた時に東京YMCAと協働で開始したエッセイ賞（懸賞論文）「豊かな福祉社会をつくるために」は、20年以上にわたり継続している。東京世田谷ワイズメンズクラブメンバーとしても活躍されている。



*左記の活動はどなたでもご参加いただけます。ほかにも約30の活動を実施しています。お気軽にお問い合わせください。
⇒ <http://tokyo.ymca.or.jp/community/>

東京YMCAでは随時「会員」を募集しています。
会費（年額）¥12,000～ 詳細は会員部 tel.03-6278-9071まで